

第 90 回日本医学会定例評議員会

2023年2月22日（金）Web 開催

午後 2 時開会

議長（門田守人日本医学会長） 皆さんこんにちは。ただ今より、第 90 回日本医学会定例評議員会を始めます。ご多忙のところをご出席いただき、誠にありがとうございます。

今回も、昨年と同様に Web での開催ということにさせていただきました。現在のところ、142 分科会の中、103 学会出席ということを開いておりますので、この会議は成立しております。

この会は医学会長が議長になるということが決まっておりますので、引き続き私が司会をさせていただきます。本日は日本医師会から松本会長、角田副会長、釜菴常任理事にご参加していただいております。

本日の会は Web 開催ということにさせていただいておりますが、終了後、第 31 回の医学会総会の記者会見を開くことになっております。その関係で第 31 回医学会総会の春日会頭、門脇準備委員長、ほか関係していらっしゃる皆さん方は、こちらから参加させていただいておりますので、よろしく願いいたします。

日本医師会長挨拶

議長（門田守人日本医学会長） それでは、初めに松本日本医師会長にご挨拶をお願いしたいと思います。松本先生よろしく願います。

松本日本医師会会長 評議員の先生方、こんにちは。日本医師会会長の松本と申します。日本医学会定例評議員会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

初めに新型コロナウイルス感染症との戦いがもう 4 年目に入りましたが、日々、日本医学会、分

科会の皆さま方が医療現場で治療や感染対策、そして研究に献身的にご尽力されていくことに対しまして、心より敬意を表しますとともに、感謝を申し上げる次第であります。

新型コロナウイルス感染症に関しましては、類型が変わりましてさまざまな亜型が出現していることや、季節性インフルエンザの感染拡大もございますことから医療体制が逼迫している状況は依然として変わっておりません。日本医師会といたしましても、気を抜けない状況に変わりはありません。診察に当たられている先生方の声や関係者団体の声を国に届けますよう、引き続き調整を図っていきたく思います。

さて、今年は 4 月に第 31 回の日本医学会総会が東京で開催されることで、私どもといたしましても大変楽しみにしております。東京での開催は、2011 年に第 28 回日本医学会総会が予定されておりましたが、ご案内のとおり直前に起きた東日本大震災によって開催形態の変更を余儀なくされたために、本格的な開催は 24 年ぶりということをお聞きしております。春日会頭をはじめ関係者の皆様のご尽力によって、最新の知見を取り入れた多彩なプログラムが組まれておりますので、日本医師会の会員の先生方にも積極的に参加を呼びかけております。

昨年、日本医学会が創立 120 周年を迎えられました。昭和 23 年に日本医学会が時の GHQ の主導の下で新生日本医師会の学術団体としても組織され、それから現在まで日本医学会と日本医師会は共に協力をしながら、車の両輪として歩んでまいりました。今後も未知の感染症の流行や、ほかにも国家間の紛争に関連して、私どもが予想もしな

第 90 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	坂井 建雄	日本矯正医学会	新妻 宏文	日本内視鏡外科学会	坂井 義治
日本解剖学会	寺田 純雄	日本神経学会	西山 和利	日本乳癌学会	戸井 雅和
日本生理学会	(連)赤羽 悟美	日本老年医学会	秋下 雅弘	(オ・連)増田 慎三	
日本生化学会	菊池 章	日本人類遺伝学会	小崎健次郎	日本肥満学会	(代)窪田 直人
日本薬理学会	(連)櫻井 隆	日本リハビリテーション 医学会	安保 雅博	日本血栓止血学会	山崎 昌子
日本病理学会	小田 義直	(オ・連)佐浦 隆一	平井 豊博	日本血管外科学会	(代)駒井 宏好
日本癌学会	佐谷 秀行	日本呼吸器学会	岡田 浩一	日本レーザー医学会	中村 哲也
日本血液学会	(連)神田 善伸	日本腎臓学会	岡田 浩一	(オ・連)貴志 和生	
日本細菌学会	(欠)	日本リウマチ学会	竹内 勤	日本臨床腫瘍学会	田村 研治
日本寄生虫学会	丸山 治彦	日本生体医工学会	(欠)	日本呼吸器内視鏡学会	川村 雅文
日本法医学会	久保 真一	日本先天異常学会	黒澤 健司	日本プライマリ・ ケア連合学会	草場 鉄周
日本衛生学会	黒田 嘉紀	日本肝臓学会	竹原 徹郎	日本手外科学会	(連)田尻 康人
日本健康学会	(連)豊川 智之	日本形成外科学会	森本 尚樹	日本脊椎脊髄病学会	波呂 浩孝
日本栄養・食糧学会	(連)曾根 博仁	日本熱帯医学会	狩野 繁之	日本緩和医療学会	木澤 義之
日本温泉気候物理医学会	(欠)	日本小児外科学会	(連)小野 滋	日本放射線腫瘍学会	宇野 隆
日本内分泌学会	有馬 寛	日本脈管学会	(連)重松 邦広	日本臨床スポーツ医学会	松本 秀男
日本内科学会	(代)稲垣 暢也	日本周産期・ 新生児医学会	田中 守	日本熱傷学会	佐々木淳一
日本小児科学会	(欠)	日本人工臓器学会	(欠)	日本小児循環器学会	(欠)
日本感染症学会	四柳 宏	日本免疫学会	三宅 健介	日本睡眠学会	(連)千葉伸太郎
日本結核・非結核性 抗酸菌症学会	磯部 威	日本消化器外科学会	齋浦 明夫	日本磁気共鳴医学会	(連)小島 隆行
日本消化器病学会	持田 智	日本臨床検査医学会	大西 宏明	日本肺癌学会	白田 実男
日本循環器学会	(連)森田 啓行	日本核医学会	橋本 順	日本胃癌学会	掛地 吉弘
日本精神神経学会	(連)水野 雅文	日本生殖医学会	(連)辻村 晃	日本造血・免疫細胞療法学会	(欠)
日本外科学会	池田 徳彦	日本救急医学会	(欠)	日本ペインクリニック 学会	(連)金井 昭文
日本整形外科学会	中島 康晴	日本心身医学会	福土 審	日本病態栄養学会	(連)山田祐一郎
日本産科婦人科学会	木村 正	日本医療・病院管理学会	上條 由美	日本認知症学会	(連)池内 健
日本眼科学会	(連)西田 幸二	日本消化器内視鏡学会	(連)良沢 昭銘	日本災害医学会	近藤 久禎
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科 学会	丹生 健一	日本癌治療学会	吉野 孝之	日本小児血液・がん学会	大賀 正一
日本皮膚科学会	天谷 雅行	日本移植学会	江川 裕人	日本老年精神医学会	(欠)
日本泌尿器科学会	野々村 祝夫	日本職業・災害医学会	佐藤 譲	日本臨床栄養代謝学会	比企 直樹
日本口腔科学会	片倉 朗	日本心臓血管外科学会	(連)小野 稔	日本再生医療学会	岡野 栄之
日本医学放射線学会	青木 茂樹	日本リンパ網内系学会	中村 直哉	日本脳神経血管内治療学会	宮地 茂
日本保険医学会	品川 貴郁	日本自律神経学会	黒澤美枝子	(オ・連)松丸 祐司	
日本医療機器学会	(欠)	日本大腸肛門病学会	宮島 伸宜	日本骨粗鬆症学会	(欠)
日本ハンセン病学会	向井 徹	日本超音波医学会	飯島 尋子	日本アフェリシス学会	山路 健
日本公衆衛生学会	今中 雄一	日本動脈硬化学会	(連)岡村 智教	日本女性医学学会	若槻 明彦
日本衛生動物学会	桐木 雅史	日本東洋医学会	伊藤 隆	日本てんかん学会	(連)池田 昭夫
日本交通医学会	(連)高戸 毅	日本小児神経学会	加藤 光広	日本インターベンショナル ラジオロジー学会	村田 智
日本体力医学会	(連)成田 和穂	日本呼吸器外科学会	吉野 一郎	日本内分泌外科学会	原 尚人
日本産業衛生学会	(連)堤 明純	日本医学教育学会	(連)平形 道人	日本骨代謝学会	(連)石井 優
日本気管食道科学会	(連)齋藤康一郎	日本疫学会	小笠原克彦	日本婦人科腫瘍学会	三上 幹男
日本アレルギー学会	(欠)	日本集中治療医学会	玉腰 暁子	日本肝胆脾外科学会	遠藤 格
日本化学療法学会	松本 哲哉	日本平滑筋学会	(連)長尾 宗紀	日本臨床神経生理学会	(連)後藤 純信
日本ウイルス学会	(連)村松 正道	日本臨床薬理学会	(連)内田 直樹	日本食道学会	土岐祐一郎
日本麻酔科学会	山藤 道明	日本神経病理学会	(オ・連)上野 正樹		
日本胸部外科学会	志水 秀行	日本脳卒中学会	小笠原邦昭		
日本脳神経外科学会	宮本 享	日本高血圧学会	野出 孝一		
日本輸血・細胞治療学会	(欠)	日本臨床細胞学会	青木 大輔		
日本医真菌学会	瀧谷 和俊	日本透析医学会	武本 佳昭		
日本農村医学会	佐藤 賢治				
日本糖尿病学会	植木浩二郎				

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席 (オ)：オブザーバー

役員 門田会長 飯野・磯・門脇・森副会長
 (日本医師会) 松本会長 角田副会長 釜菴常任理事
 (幹事) 今井・北川(昌)・宮園・菊田・川上・岸・春日・小池・寺本・名越・南学・矢富・苛原・北川(雄)・齊藤・澤・
 瀬戸・北・秋葉・神庭
総会 春日会頭 門脇準備委員長 小嶋事務局長

いことも起こりうるかもしれません。どのようなときがありましても、互いに協力し合って医学・医療の抱えるさまざまな問題を共に解決できますよう、今後も日本医学会の皆さまと一緒に歩んでいきたいと考えております。

日本医学会ならびに各分科会が今後ますますの発展をされますようご期待申し上げまして、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願ひいたします。

■議事録署名人

議長(門田守人日本医学会長) それではただ今より議事に入りたいと思います。最初に議事録署名人の選出を行いたいと思いますが、議長が指名することになっておりますので、指名させていただきます。基礎・社会医学系から、日本医真菌学会の澁谷和俊先生、臨床医学系から、日本小児血液・がん学会の大賀正一先生、いらっしゃいますでしょうか。

澁谷和俊(日本医真菌学会) はい、出席しております。ご指名ありがとうございます、承知いたしました。

大賀正一(日本小児血液・がん学会) 日本小児血液・がん学会の大賀でございます、よろしく願ひいたします。

議長(門田守人日本医学会長) よろしく願ひいたします。それでは、お二方に議事録署名人をお願いして進めたいと思います。

まず、本日の進め方の説明ですが、最初にこの定例評議員会が終わりましたら、日本医学会連合の臨時社員総会をこのままの形で引き続き開催したいと思いますので、こちらの評議員会が終わった後、そのまま残っていただきたいということが最初のお願ひです。

この評議員会の概要ですが、最初に第31回日本医学会総会の準備状況を総会の役員の方々から願ひしたいと思います。その後、2022年度の年次報告を行い、その際に日本医学会の予算ならびに第32回日本医学会総会の会期、役員等についてご報告をしたいと思います。

次に、協議事項としては、2023年度の事業計

画、日本医学会加盟学会の承認の日程についてお諮りいたします。

なお、本日お諮りいたしますことは、この会の前に開催いたしました第6回日本医学会幹事会でお諮りしてご承認を得ているものでございます。

また、先ほども同じことを申しておりますが、この後、医学会連合の社員総会をして終わりたいと思いますので、どうぞよろしく願ひいたします。

■日本医学会長挨拶

門田守人日本医学会長 それでは簡単にご挨拶を申し上げたいと思います。先ほど松本日本医師会会長からもお話がございましたが、昨年はわれわれにとっては1つの大きな節目であったと、創立120周年記念事業ということで、この会場、医師会の大講堂で開催させていただきました。そして、新しい120年が今まさに始まるというタイミングが今日であります。そして同時に第31回日本医学会総会が開かれる、新しい31回目がスタートするという節目でございます。

そういった意味から、非常に複雑な分かりにくい時代になりつつありますが、学術が正しい道を示すしかないというのがわれわれの考え方、逆にわれわれの使命でもあると思っております。どうぞよろしく願ひいたします。

■報告事項

■日本医学会総会準備状況の報告

議長(門田守人日本医学会長) それでは議事を進行させていただきます。まず報告事項として、第31回日本医学会総会準備状況の報告を、春日雅人会頭から願ひいたします。

春日雅人第31回日本医学会総会会頭 私から第31回の日本医学会総会の基本構想を中心にご報告したいと思います。

第31回の日本医学会総会は「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」というテーマで、本年の4月21～23日、これが学術集会です。そして学術展示が4月

20～23日、市民展示、一般展示とありますが、これを博覧会と呼んでおりますが、これが4月15～23日で、東京国際フォーラムおよび丸の内・有楽町エリアで開催いたします。開催形式は、現地開催+Web開催、いわゆるハイブリッド開催でございます。ライブ配信およびオンデマンド配信の予定をしております。

医学会総会を開く目的でございますが、1つは日本医学会を構成する各分科会が一堂に会して、医学・医療をめぐる課題について広く分野横断的に討議すること。2番目といたしましては、医学・医療の現状、課題、将来像の社会への発信と対話、それを考えております。

基本構想は、ビッグデータに体现されますAI、IoT、ロボティクスなどの技術革新を核としたデジタル革命が進行し、社会は歴史的な転換点を迎えております。それに伴い、医学・医療も大きく変わろうとしています。

このデジタル革命が、医学ならびに医療を、どのようなスピード感をもって、どのように変革していくのか、その光と影を参加者の皆さまと情報共有できればと思っております。

また、各種の革新的な技術を、社会実装する際に生じる倫理的、法的、社会的課題についても明らかにし、その解決策を探りたいと思っております。

そのほか、新型コロナウイルス感染症、医師の働き方改革、地域医療構想、医学研究と医療における患者・市民参画などに関しましても、いくつかの視点から取り上げる予定にしております。

4年に一度の医学会総会でございますので、ぜひ先生方にもご参加いただきまして、わが国の医学・医療を俯瞰して、未来に思いを馳せる機会にさせていただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

議長(門田守人日本医学会長) ありがとうございます。次に、門脇準備委員長からもよろしく申し上げます。

門脇 孝第31回日本医学会総会準備委員長準備委員長を務めております門脇です。評議員会の資料では1ページ目から3ページ目になります

が、そのガイド部分について、スライドでプレゼンテーションさせていただきます。

日本医学会総会の準備につきましては、全体として組織委員会を作っております。この組織委員会の下に10の委員会がございます。

今回、春日会頭のお考えで、元々男女共同参画等推進委員会、その名前をさらに変えまして、ダイバーシティ推進委員会が立ち上がっています。本日は、委員会活動別にこの準備状況についてご説明いたします。

学術委員会は南学先生が委員長で、16名の特別講演が確定しています。

「ビッグデータがもたらす医学・医療の変革」から、「パンデミック・大災害に対抗するイノベーション立国による挑戦」まで、5つの柱に基づき48セッションのプログラムが確定しています。

会頭特別企画として、8セッションが確定。U40委員会とダイバーシティ推進委員会により、15セッションが確定。日本看護協会などとの共同企画として6セッションが確定。また学生企画、Late Breaking Sessionの企画内容が確定となっています。これらを合わせて、およそ100のセッションが開催されます。第30回から行われていますが、日本医学会総会奨励賞を公募し、今回は少し枠を拡大いたしました。現在、受賞候補者が計20名選定をされております。

また日本医師会および東京都医師会と連携して、産業医の研修単位取得セッションについて99セッションが確定。市民向けセッションとして19セッションが確定しています。

総務委員会は齊藤先生が委員長で準備をしています。講演会場はここに書いてある29か所にて確定。また分科会認定単位については93学会より単位認定、ほぼすべての学会でWeb視聴の際も単位が認定されることになりました。産業医認定単位について、日本医師会、各都道府県医師会の協力により、現地会場以外のサテライト会場を43都道府県61会場設置し、そこで視聴しても単位取得が可能になりました。

総会開催前の市民公開講座をすでに2月4日、600名の参加で開催し、これについては、後ほど

式典委員会のところでご説明いたします。

登録委員会は國土先生が委員長を務めています。参加者の事前登録受付中です。同一職種内の登録者については団体割引制度、11名登録で1名無料を適用。Under 40のみならず、今回 Over 75 を新設いたしました。事前登録者にはさまざまな特典を用意しています。また、学生の参加促進のため、一部のセッションをサテライト会場で配信するお試し医学会総会も企画しています。

展示委員会は青木先生が委員長を務めています。今回初めて、オンライン博覧会をオープンしています。この展示については、ほぼ準備が整っております。

広報委員会につきましては、岡野先生が委員長を務めています。組織委員へのインタビューや「見どころ・聞きどころ」等を掲載、ホームページを充実させています。また、SNS (Facebook, Twitter) を開設し、新しい形の広報を積極的に展開しています。

式典委員会は沖永先生を委員長として、開会式、閉会式等を東京国際フォーラムで開催予定です。従来、開会式の前日に開催されていた会頭招宴については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して中止とし、代替りの企画として、第31回日本医学会総会開会記念特別講演会・市民公開講座を東京国際フォーラムホールAで、参加者はおよそ3,000名という形で企画をしています。

また、開会式、閉会式につきましても、東京国際フォーラムホールAで、それぞれここに記載されている日時で行います。

財務委員会は、間野委員長を中心に活動しております。寄附金および協賛・出展を団体・企業等に積極的に依頼し、充実した学術講演会や学術展示博覧会ができるように努力してまいりました。同時に、財政の健全化を図るべく、定期的に予算状況を確認して、支出の最適化という形で、透明性を担保した運営をしていただいています。

記録委員会は松藤先生が委員長として準備をしていただいています。記念新書、これは近年医学会総会のたびに出版されているものですが、春日会頭が編集されまして、「医の変革」というものが

完成しています。すでに店頭でもお求めが可能ですが、登録者の方には、コンgresバッグの中にこの記念新書を同封するというにしています。

これも春日会頭のお考えで、特に小学生5年生程度を対象の中心として、総会の基本理念をテーマとした子ども向けの学習漫画、ビッグデータと医療というものを制作中で、ほぼ完成しています。これにつきましては、ビッグデータの医療における役割、あるいは健康管理における役割などについて、子どもにも非常に分かりやすく、面白く作ったものであります。

今回は記録集については、従来のものだけではなくて、記録映像という形で残したいと考えています。

ダイバーシティ推進委員会は、大野先生が委員長として、ダイバーシティあるいはスマートな働き方についての企画を行っています。

最後にソーシャルイベント委員会は、角田先生を委員長として、12の種目を企画および準備中です。

もう4月が、あとちょうど2か月に迫っておりますが、2023年度はこのような活動をする事になっております。以上です、どうもご清聴ありがとうございました。

議長 (門田守人日本医学会長) 春日先生、門脇先生、どうもありがとうございました。いろいろとご検討いただいております。大事なことは、多くの皆さんに参加していただくことだと思います。各分科会の先生方、ぜひ多くの方に参加していただきますよう、よろしく願いいたします。ここまではご質問よろしいですね、それではその次にまいります。

■日本医学会年次報告の件

議長 (門田守人日本医学会長) 2022年度日本医学会年次報告の件、資料の1番を見ていただきたいと思います。日本医学会総会は、ただ今詳しくご報告いただきましたので、これは省略したいと思います。

2番目、日本医学会幹事会です。これは先ほど、皆さま方にお諮りしているものを、幹事の方に検

討していただきました。

3 番目、日本医学会臨時幹事会は、昨年の 6 月 22 日に開催いたしました。主な議題には後で触れますが、臨時評議員会の議題と同様であります。

4 番目、日本医学会定例評議員会。これは本日、ここに開いております会でございます。

5 番目、日本医学会臨時評議員会。先ほども触れましたが、6 月 29 日に開催されて、議題は第 31 回日本医学会総会の準備状況ならびに第 32 回日本医学会総会、2027 年開催についてということでございます。32 回の総会については後ほどご報告いただきますが、大阪大学の澤 芳樹先生を会頭として開催することを承認していただきました。

6 番目、日本医学会シンポジウム。4 ページになります。このシンポジウムは、医療関係者を対象に毎年 2 回開催しております。新型コロナウイルス感染症拡大の関係で無観客収録、そして後からオンデマンド配信という形でやっております。

7 月 23 日には、「危機にある日本の医学研究と将来展望」、10 月 22 日に開催しました 161 回のシンポジウムでは「COVID-19 がわが国の医療・医学に及ぼした影響」というテーマで動画配信をさせていただきました。また、シンポジウム企画委員会は、この企画を検討していただくためのものです。

7 番目、日本医学会公開フォーラム。先ほどのものは医療関係者中心ですが、今度は一般の方を対象にしたフォーラムです。7 月 16 日には、「健康長寿に向けたフレイル・ロコモ対策～各領域内および領域横断的取り組みの現状・課題と展望～」をテーマに開きました。10 月 8 日には、「健康長寿のための脳卒中・循環器病対策～脳卒中・循環器病対策基本法の成立を受けて・課題と展望～」をテーマに開催させていただきました。

8 番目、日本医学会協議会は毎月、医学会長、副会長、日本医師会の担当副会長、常任理事で開催しているものです。

9 番目、日本医学会医学用語管理委員会。これは日本医学会としていちばん歴史の長い委員会です。大江委員長をはじめ 14 名の委員と協力会社

で構成されています。日本医学会用語辞典 Web 版は現在、日本医学会ホームページで公開されていますが、医学領域における電子化された専門用語データベースの資源になることを目指して改訂を行うということで、現在準備が進んでおります。

この委員会には 3 つのワーキングがございます。1 つは「遺伝学用語改訂に関するワーキング」、もう 1 つは「不適切語を含む医学用語の検討ワーキング」、さらに「用語表記基本指針策定ワーキング」ということで、3 つのワーキングが立ち上がっております。「遺伝学用語改訂に関するワーキング」というのは、優性遺伝、劣性遺伝ということから端を発して検討を進めていただいております。今のところ、優性遺伝を顕性遺伝、劣性遺伝を潜性遺伝ということにしていますが、それだけでは最初は分かりにくかろうということで、顕性遺伝（優性遺伝）、潜性遺伝（劣性遺伝）という形で、括弧付きでしばらく状況を見ようと進めております。

「不適切語を含む医学用語の検討ワーキング」は、「奇形」の付く用語を検討しておりましたが、「奇形」以外にも不適切な用語まで範囲を拡げて検討が始まっております。

また、この「用語表記基本指針策定ワーキング」につきましては、医学用語辞典を策定するに当たり、ひらがなであったりカタカナであったり、読み方やそれぞれ挙げてみればいろいろと不確実なところがあるということで、整理する必要があるとして、行われているものです。

13 番目、日本医学会分科会用語委員会。これは管理委員会で行われていることを元に、各分科会の医学用語との連携を図るため年 1 回、全学会の用語委員の皆さんと共に会を開いているものです。

14 番目、日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の選考委員会です。これは医師会から審査を委託されていることをしています。昨年は医学賞 3 名、研究奨励賞 14 名の選考を行い、それらの方々に授与されました。

15 番目、日本医学会加盟検討委員会。これにつきましては、また後ほど森委員長からご報告があ

ります。毎年加盟学会を検討していただいております。

16 番目、日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会です。これは NIPT の問題があり発足したのですが、NIPT にかかわらず、最近いろいろなことが問題になっておりますので、この検討は引き続き行われております。

17 番目、日本医学会利益相反委員会です。これは徳島大学の曾根三郎名誉教授に委員長を務めていただいて、これも常にいろいろと課題が出てきているということです。

18 番目、日本医学会分科会利益相反会議。これも利益相反に関わる会議として、各分科会の皆さんと一緒にディスカッションする会です。

19 番目、日本医学会産学連携健全化ワーキンググループ。これは新しくできたもので、日ごろ経験されることと思いますが、講演会あるいは学会発表を含めて、発表する内容について企業からのチェックが入ることや、追加の注文があったりもします。果たしてこれをどうするのがいいのか、ということを検討しています。

20 番目、医学雑誌編集者組織委員会。北村 聖東大名誉教授に委員長をやっただき、引き続き検討が行われております。

21 番目、医学会雑誌編集者会議。これは各学会の雑誌編集者の方を集めての会という形で開いております。

22 番目、研究倫理教育研修会。これは臨床研究、あるいは利益相反を含めていろいろな課題があるわけですが、それぞれ違うものを一緒に 4 委員会が合同で、日本医学会連合の委員会であります研究倫理委員会、診療ガイドライン検討委員会、日本医学会の医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会の利益相反委員会。この 4 つの委員会が合同で、皆さんに対しての研修会を開くということで進めていっております。次は今年の 6 月 1 日が予定されておりますので、ぜひ予定に入れていただきたいと、担当副会長の門脇先生からサジェスションがありました。

23 番目、日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会。2019 年に発足しまして、昨年の 2021 年

7 月に報告書を公表しました。しかしそれに伴う課題がいまだにあり、検討が続けられております。

24 番目、日本医学会総会あり方委員会。総会は時々刻々、時代と共に変わってくるということで、引き続き検討をいただいております。

25 番目、再生医療等レジストリ協議会。これは日本再生医療学会が中心にやっておられましたが、非常に幅広い領域で再生医療が行われるようになったということで、日本医学会を軸にこのレジストリをどうするかということを検討するためにできた協議会です。

26 番目、これは昨年の日本医学会創立 120 周年事業、2022 年の特別な事業として行われました。ご存知のとおりと思いますが、昨年の 4 月 2 日、日本医師会大講堂において、式典・シンポジウムを開催し、オンデマンド配信を行いました。また 120 年記念誌の編纂も行ってきた委員会があります。

27 番目、移植関係学会合同委員会。これは 1992 年、わが国で移植がスタートする段階で発足した委員会で、日本医学会会長が代表世話人を務めております。今、各臓器の移植施設を認定するという作業が中心に行われています。

28 番目、出生前検査認証制度等運営委員会。これにつきましては、先ほどありましたが、NIPT に関する検査が認定施設以外のところでどんどん広がっているということで改めて制度が見直され、再スタートするために設けられた委員会です。

29 番目、これはニュースですが、日本医学会 e-News というものを 5 月、10 月に配信しました。ホームページをリニューアルし、スマートフォンにも対応できるということにいたしました。

会議の開催ですが、これは 17 ページ、18 ページに掲載している形で開催いたしました。その他として、報告書などが掲載されております。

■日本医学会予算

議長（門田守人日本医学会長） その流れの中で、日本医学会予算について少しお話ししたいと思います。日本医学会は単独の予算ではございません、日本医師会の予算の中で医学会が活動して

いるということで、毎年医師会予算から与えられておりますが、2022年度、今年度の予算としては総額1億2,043万円が付与されています。これは一昨年と全く同じでございました。今後も類形の形で進むのではないかとこの段階です。

2022年度の活動について、ご報告させていただきました。

■第32回日本医学会総会について

議長(門田守人日本医学会長) 引き続きご報告として、第32回日本医学会総会が発足、準備が進む段階でございますが、その役員ならびに日程がどうなっているのか、先ほど申しましたが、会頭の澤 芳樹先生から報告をお願いしたいと思います。澤先生、お願いします。

澤 芳樹第32回日本医学会総会会頭 はい、ありがとうございます。このたび、第32回の医学会総会会頭に任命いただいております、大阪大学、そして大阪警察病院の澤 芳樹でございます。本当にこのような素晴らしい学会の会頭という役割をいただきまして、身に余る光栄でございます。31回が、先ほども聞いておりましたが、素晴らしい会の準備ができていくということで、これを見習いつつ、またこれまでの120年以上の伝統に恥じないような総会にすべく、4年間で準備をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いたします。

第32回の医学会総会、日程は2027年、令和9年の4月23～25日を予定しております。今回の31回に見習いまして、ほぼ同じ時期に開催させていただき予定しております。学術展示、同時開催のイベントにつきましても、今回の31回を見習いまして、ほぼ同じ時期、タイミングで開催させていただき準備しております。

会場は、学術集會は中之島国際会議場、そしてリーガロイヤルホテルを中心に行う予定です。中之島にはそれ以外にもたくさんの会議施設がございますので、こちらでも行いたいと思っております。また市民イベントにつきましては、うめきた、大阪駅の北側ですが、2024年10月には新たに街開きが行われ、27年には施設が整っているよう

です。場所のいい、市民の方が集まりやすいうめきたを中心としてイベントを開催したいと思っております。会頭につきましては、私が会頭を仰せつかっております。今回やはり、万博もそうですが、大阪関西という形で開催したいと思っておりますので、京都大学、大阪大学、大阪公立大学、また、神戸大学の代表の先生方に、副会頭をお願いしたいと思っております。さらに大阪府医師会の会長にもお願いしたいと思っておりますし、ナショナルセンターであります国立循環器病研究センター総長にもお願いしたいと思っております。

準備委員長につきましては、大阪大学循環器内科の坂田泰史教授をお願いしております。準備に関しましては大変規模も大きく多忙でございますので、その補佐として形成外科の久保盾貴教授をお願いしております。

幹事長につきましては、呼吸器外科の新谷 康教授をお願いしております。事務局長につきましては、私の教授時代に医局長を務めてくれました、医療法人協会の北川 透理事長をお願いいたします。また副事務局長につきましては、保健学科の上野高義教授をお願いしようと思っております。

学術委員会につきましては、免疫学の石井 優教授をお願いしております。総務委員会につきましては、脳神経外科学の貴島晴彦教授をお願いしようと思っております。登録委員会、これも大変重要な役割でございますが、こちらは消化器外科の土岐祐一郎教授をお願いしております。広報委員会は、整形外科の岡田誠司教授をお願いしております。式典委員会につきましては、薬理学の日比野 浩教授をお願いしております。財務委員会につきましては、泌尿器科の野々村祝夫教授に、記録委員会につきましては、医療情報学の武田理宏教授をお願いしております。

展示イベント委員会につきましては、心臓血管外科学の宮川 繁教授に、ダイバーシティ推進委員会につきましては、中島和江教授をお願いしております。

特別顧問には、前回、20年前でございますが、大阪で第27回医学会総会が開催されたときの会

頭でいらっしゃいます、岸本忠三先生にお願いしておりますし、また医薬基盤・健康・栄養研究所理事長の中村祐輔先生にも特別顧問をお願いしております。

後援としましては、関西経団連、関西経済同友会、大阪商工会議所、さらに大阪府、大阪市、そして大阪観光局をお願いしております。

いずれにしましても、大変大きな学会でございますし、今回の学会を見習いながら4年間しっかりと準備を進めて、大きな会の成功に向けて尽力してまいりたいと思っておりますので、ご支援のほど何卒よろしくお願いいたします。

以上でございます。

議長(門田守人日本医学会長) 澤先生、どうもありがとうございました。これから大変な準備が進むと思いますが、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

そこで1点、お願ひがございます。実は31回の春日会頭のときにもお願ひしたことがあります。この医学会総会は、現在のところ141学会の総会ということから、準備は地域性があってもいいと思うのですが、内容的にはぜひ、141の学会から意見を吸い上げる方策を考えていただひて。また、学会の中からも登録していただく先生方が増えるようなご努力をお願ひできたらと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

澤 芳樹第32回日本医学会総会会頭 はい、ありがとうございます。門田先生からおっしゃっていただいたとおりに、141の学会、今日もご参加されている100以上の学会の先生方に、ぜひ一緒に医学会総会を盛り上げていただくよう、ご支援いただきますように、よろしくお願ひしたいと思ひます。

議長(門田守人日本医学会長) ありがとうございます。良かったです、よろしくお願ひいたします。

報告事項は準備したものは全部終わりましたが、ここまでで全体を通して何かご発言等ございましたら、おっしゃっていただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

協議事項

■ 2023年度日本医学会事業計画

議長(門田守人日本医学会長) それでは協議事項に移りたいと思ひます。

協議事項の1番、2023年度日本医学会事業計画の件。共有されておりますが、2023年度日本医学会事業計画を見ていただきたいと思ひます。

とは申しましても、実はわれわれは年次でほぼ類似のことをずっと続けなければならないということがございます。

ここに挙げていますように、先ほど年次報告をさせていただきましたが、その内容がほぼ上がっております。1点、120周年記念事業は今回はありません。それが外れた以外は、すべて同じような形で活動を続けていくという計画となっております。ということで、内容について詳細に説明することは、割愛させていただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。

何かご質問等ありましたら、おっしゃっていただきたいと思ひますが、こういう形で引き続き進めていくということで、よろしいですか。

一応、協議事項となっております。ここで採決をしたいと思ひますが、特にご意見ございませんか。そうすると、今年度もお手元にある資料どおりの形で事業計画を進めるということに賛同の方、挙手をお願いいたします。

(挙手)

100%満場一致ですか。皆さんにご賛同いただきましたので、この事業計画をご承認いただいたということにさせていただきます。ありがとうございます。

■ 2022年度日本医学会加盟学会

議長(門田守人日本医学会長) 協議事項の2番目、2022年度日本医学会新規加盟学会の件ということで、2022年度医学会新規加盟学会の選出について、森委員長のほうからご説明をお願いいたします。

森 正樹加盟検討委員会委員長 よろしくお願

いたします。委員長を拝命しております、森でございます。

2022年度は、2022年の5月15日に新規加盟申請の公示をいたしまして、7月31日の締め切り日までに21の学会、ここにある13とその次のページ、ここまで含めた21の学会から申請依頼がございました。

初めに、委員の方が13名おられますので、13名の委員によりまして書面審査を行いました。書面審査は、学術性や国際性、社会への貢献、ダイバーシティ等々、さまざまな観点から採点を行って審査するものでございますが、そこで基準点以上の得点を取りました3つの学会につきまして、12月8日に審議を行いました。2次選考の場合、13名のうちの2/3以上の賛成で認められるということになりますので、今年度は日本国際保健医療学会の1学会が認められたということでございます。

今年1月6日の第10回日本医学会協議会に報告し、協議会で了承が得られましたので、本日開催しました第6回日本医学会幹事会に提出し、同様に了承が得られました。

以上、ご報告申し上げます。門田先生よろしくお願いたします。

議長(門田守人日本医学会長) ありがとうございます。選考委員会でディスカッションをされて、委員会、協議会、それから先ほどの幹事会で日本国際保健医療学会を認めるという形で賛同を得ております。

その件につきまして、最終的にはこの評議員会で決定するということになるわけですが、何かご発言、あるいはご意見ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。特にないようでしたらこれにつきましても、決を採りたいと思います。よろしいですか。

国際保健医療学会の加盟について、これを承認するという方の挙手をお願いいたします。

(挙手)

皆さんが手を挙げていただいているのは、賛成ということですのでよろしゅうございますか。ありがとうございました。皆さんの賛成をいただきました

ので、これはご承認ということにさせていただきます。ありがとうございます。あとは医師会の理事会に報告することが定款で決まっておりますので、そのようにさせていただきます。

■学会名称変更の手続きについて

議長(門田守人日本医学会長) これには直接は関係ございませんが、加盟に関連してお願いがございました。加盟ではなくて、名称変更、学会の名称変更というのが前から時々話題になっているかと思いますが、このところいくつかそういうことがありました。

単一の、自分のところの学会だけで名称を決めると、ほかの学会にも影響が出る可能性がある、以前ディスカッションいたしました。2021年の6月の臨時評議員会において、これはきちんと決まりを作っておかなくてはならない。いろいろな形で、各学会の意見も聞いて検討していくためには簡単にはできないということで、少なくとも1年という時間的ゆとりをもって、ご変更の考えを聞かせていただきたいと、2021年の6月で申し上げました。

それが十分伝わっていなかったのか、また名称変更の希望が伝わってきておりますので、この際改めて、この2021年6月18日の評議員会の決定事項をもう一度ご確認していただき、もしそのようなことを考えていらっしゃるようなところがあるとするならば、これに沿ってやっていただくということにさせていただきたいと思います。

このような形で、名称変更の2番目として、1年前までにご連絡いただくということが、その後いろいろなことをしていくために必要な時間だということですので、この辺りを改めてご認識いただき、対応をよろしくお願したいに思います。

以上、お願いでした。

ここまでよろしいでしょうか。何か質問があればおっしゃっていただきたいと思いますが、特になければ、その次にまいります。

■日本医学会利益相反管理規程案

議長(門田守人日本医学会長) 日本医学会利益

相反管理規程案について、資料8を見ていただきたいと思いますが、日本医学会では、日本医学会役員等のCOI管理を行う仕組みが今までは十分ではありませんでした。そういうことから、再度改めて日本医学会利益相反委員会で利益相反管理規程案を作成いたしました。この規程案について、昨年の5月に各分科会へお送りして、皆さんのご意見をいただきました。

そのときにお送りいたしましたのは、利益相反規程と、それから医学会の中での委員会の細かい規定を決める委員会附則というのがあります。整理しておくのが普通だったのですが、それが少し混在していたという状態にありましたので、そのところを整理して、今回、案とさせていただきます。

内容的には変わっておりませんが、附則と規定に整理したものを、今回、お諮りさせていただくということです。この形でリーガルチェックをお願いし、そして問題なしということになって、今日お諮りさせていただくものであります。基本的には大きく変わったものではありません。ただ、この役員の利益相反などを明記したというものでございます。

内容については、一度、各分科会で見ていただいております。それを整理し直したのですが、改めて皆さんの了承を得たいと思っております。これにつきまして、ご意見、ご質問あればおっしゃっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。今の時代からいって、こういう類のものを明確にしっかりとしておく必要があるということから、整理をし直したということでございます。

ですが、いかがでしょうか。これも皆さまの採決をお願いしたいと思っております。賛成の方、挙手をお願いいたします。

(挙手)

皆さん、賛成をしていただきました。ありがとうございました。それでは、この内容を最終案として、皆さんのところにまた連絡させていただくと思っております。

本日の評議員会で予定されました議題は以上で終わりですが、何か全体を通してご発言等ございましたら、おっしゃっていただきたいと思っております。いかがでしょうか。特にございませんか。なかなかこういう時代で直接お目にかかることなく、オンラインの会になってしまいましたが、よろしくございますか。

それでは、これもちまして日本医学会定例評議員会を終了したいと思います。

皆さんにお願いですが、先ほど申しましたが、日本医学会連合も同じような形で臨時の社員総会としてお諮りしたいことがございます。お諮りしたいことと言いますよりも、ただ今は日本医学会の中の分科会としての入会をお認めいただいたということでございますが、この日本医学会と日本医学会連合の会員は同じものとしていくということが基本であるとしておりますので、その承認をお願いする社員総会に引き続き移るということをお願いしておきたいと思っております。

ひとまずここで、評議員会を終了したいと思います。すぐ次の連合の臨時社員総会に移りますので、ひとまずここまでで評議員会を終了いたします。どうもご協力ありがとうございました。